

関西道路研究会道路視察

今年は神戸方面ということで、以下の4箇所を視察してきました。

新神戸トンネル（期）現場視察

すでに供用されている新神戸トンネルの南進部として、JR及び阪急高架下にボックスカルバートを構築する工事です。

頻りに列車が運行する営業路線下を、既設の橋脚やボックスカルバート(市道)を仮受け(アンダーピニング)しながら、約20mの大深度掘削となる難工事です。何段にも切り梁や腹起こしが輻輳する中、なれない工事用階段を下つくと徐々に緊張した現場の雰囲気を感じます。

中は結構な広さがあるものの閉所恐怖症の人にちょっとつらい空間です。地上に戻った時、ほっとしたのが正直な気持ちです。

幾層にも輻輳する切梁



神戸空港

次に向かったのは、来年度開港予定の神戸ポートアイランド2期沖合いに造成中の神戸空港です。アクセスのための道路橋はすでに完成しており、新交通システムも空港駅舎部や橋脚が建設中でした。

主要部分の造成工事もほぼ終わっており、部分的には滑走路の舗装も始まっていました。開港まであと一年に迫り、工事自体は急ピッチで進んでいると思いますが、ただただ広い空間は、その前に見学した地下工事とは対照的になんとなくのんびりとした雰囲気を感じました。

【空港の諸元】面積：272ha 滑走路：2500m（1本） 総事業費：3140億円



神戸空港整備イメージ
神戸市みなと総局空港整備室ホームページより



空港嶋から連絡橋、六甲山を望む



ただただ広い

ウイングスタジアム

ウイングスタジアムではピッチ真横にあるガラス張りの部屋で、食事をしながら施設の説明を受けました。その後、天然芝には足を踏み入れることはできませんでしたが、ピッチにも出ることができました。

芝生のメンテナンスには苦勞も多く、数多くのノウハウが蓄積されたそうです。またピッチから見る大屋根は圧巻。25m×80m(400t)の大きさで、約20分で開閉できるそうです。ちょうど小学生くらいの一団も見学に来ていました。今後の施設運営には厳しいものがあると思われませんが、子供たちにとっては将来に向け多くの夢を与えてくれることでしょう。

【スタジアムの諸元】

収容人員：約34000人(臨時席含む) 建築面積：31000m² 高さ：45m

フィールド：83m×137m 建設費：130億円



芝生が美しい

兵庫県立広域防災センター

最後は三木震災記念公園にある兵庫県立広域防災センターです。

災害時には全県域をカバーする広域防災拠点、平常時には県下の地域防災リーダーを対象とした研修や、消防学校として複雑多様化する災害に向け消防職員や消防団員の養成を行います。



上：兵庫県立広域防災センター

下左：訓練風景

下右：訓練用の事故車とダミー人形

私たちは、施設の説明を受けた後、煙の中の避難と地震の体験をすることになりました。火災を想定した避難体験では、実際の煙（有毒ガス）の代わりに湯気となります。ちょうど真っ暗なサウナの中を手探りで避難するわけですが、わずか10数mですが簡単には行きません。



避難訓練用の暗室
（煙の代わりに50度の湯気）

1分以上かかって非常口のぼんやりとした明かりを見つけほっとした次第です。50度近い温度の水滴が首筋に容赦なく落ちてくるのが結構リアルでした。次に起振車による地震体験です。阪神大震災の実際の波形を再現しており本当にリアルでした。10年前の恐怖が蘇ります。



起振車（深度7の再現）

閉所・暗所・振動を一気に体験した、長い長い一日でした。